

備前市事務事業評価シート

(平成22年度事業)

事業の概要					
事業開始年度		平成14年～			
総合計画	大項目	基本目標	03	地域文化と人が輝くまちづくり	根拠法令・例規等
	中項目	基本施策	03	歴史と文化の輝くまちづくり	担当課(室)
	小項目	施策	02	文化財の保存と活用	世界遺産登録推進室
事務事業名					02
旧開谷学校世界遺産登録推進事業					職・氏名
					次長 末長章彦
					電話
					0869-64-1841
					このシート作成に要した時間
					2.0 時間

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的	
対象(誰・何に対して)	旧開谷学校や世界遺産に興味関心がある人。
目的(何のために)	旧開谷学校の建造物とその創学の精神を受け継ぎ、未来の世代へ継承するために世界遺産への登録をめざす。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	旧開谷学校世界遺産登録推進委員会が他の民間団体と積極的に協力し、応援活動を盛り上げる。

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業の実績				
目的を達成するために実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度	
	開谷学校世界遺産登録推進委員会事務事業	旧開谷学校の世界遺産登録推進向け、シンポジウムや講座などを開催し、広報活動に務める。		
	旧開谷学校世界遺産登録推進事務事業	専門委員の会議を開催し、提案書案を作成する。関係諸機関と調整を行う。		

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業費等		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
事業費	直接事業費		100	950	2,458
	必要人員(人) 件費	千円	0.38人 3,027	0.85人 3,520	0.42人 3,696
	事業費計		3,127	4,470	6,154
決算額	国県支出金				
	受益者負担金				
	繰入金	千円			
	市債				
その他( )					
一般財源		3,127	4,470	6,154	
受益者負担比率	%		-	-	-

結果指標		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
世界遺産シンポジウム参加者数		説明	世界遺産シンポジウム参加者数		
結果指標	量	人	240	240	160
対前年比	%		-	-	66.7%
活動コスト		円	4,470,000	4,470,000	4,646,000
単位当たりコスト			#DIV/0!	18,625	29,038

事業の成果						
成果指標名	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度目標値	
		目標値(A)%	0	0	40	40
提案書作成に向けた指導延べ委員数	実績値(B)%	0	0	18	到達目標値	
	達成率(B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	45.00%	40	
成果指標設定の考え方や説明						
旧開谷学校を世界遺産に登録するためには、まず国内暫定一覧表に登録する必要がある。国内暫定一覧表に登録するため、文化庁に提出する資料を専門委員の指導のもと作成している。専門委員の指導を受ける機会が増えることに、研究は進み、提出資料の完成度は上がる。そのため、提案書作成に向けた指導延べ委員数を成果指標とした。						

事務事業の評価		5段階評価(A~E)のランク基準 A:高い B:やや高い C:普通 D:やや低い E:低い	
妥当性の評価	市との関与の妥当性 必要性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input checked="" type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	妥当性評価 <A~E> <b>C</b>
		市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い
効率性の評価	コスト	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 <A~E> <b>C</b>
		目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の到達目標値は達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 法定事務・内部管理事務であり成果は求めにくい <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参加している

が事業の目的やその留意性を評価しな

進行年度(H23年度)の改革改善内容						
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
説明	提案書を作成し、旧開谷学校の国内暫定一覧表への記載を目指す。文化庁から、暫定一覧表への記載は不可能であるという明確な回答があった時点で、事業の廃止を検討する。					

総合評価		5段階評価(A~E)のランク基準 A:高い B:やや高い C:普通 D:やや低い E:低い	
専門委員の委嘱を行い、調査研究を進めてきた。また、シンポジウムを開催し、その成果をまとめた報告書を作成する。旧開谷学校の世界遺産登録に向けての研究は充実してきた。今後、世界遺産登録に向けて事業を継続するのであれば、コストの増加避けられない。	評価区分 <A~E> <b>C</b>		

平成24年度の方向性及び取組目標						
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
	取組目標					
平成23年度に提案書を作成し、文化庁から、暫定一覧表への記載は不可能であるという明確な回答があった時点で事業は廃止する。暫定一覧表への記載となり、市として継続の必要があると考えるのであれば、専従職員の配置等、世界遺産登録後を見据えた組織作りが必要となる。						